

【表紙】	
【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月27日
【発行者名】	T & Dアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤瀬 宏
【本店の所在の場所】	東京都港区芝五丁目36番7号
【事務連絡者氏名】	富岡 秀夫
【電話番号】	03-6722-4813
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券に係るファンドの名称】	DC アクティブ バリュースhare オープン
【届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券の金額】	継続募集額 1,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

**1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】**

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成27年5月27日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

**2【訂正の内容】**

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部\_\_\_\_は、訂正部分を示します。また<更新後>の記載事項は原届出書の更新後の内容を示し、<追加>の記載事項は原届出書の追加の内容を示します。

**第一部【証券情報】****（４）発行（売出）価格**

<訂正前>

（略）

T & Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-3434-5544（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

<訂正後>

（略）

T & Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6722-4810（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

**第二部【ファンド情報】****第1【ファンドの状況】****1 ファンドの性格****（３）ファンドの仕組み**

委託会社の概況

<訂正前>

a . 資本金

平成27年3月末日現在 11億円

（略）

c . 大株主の状況

平成27年3月末日現在

（略）

<訂正後>

a . 資本金

平成27年9月末日現在 11億円

（略）

c . 大株主の状況

平成27年9月末日現在

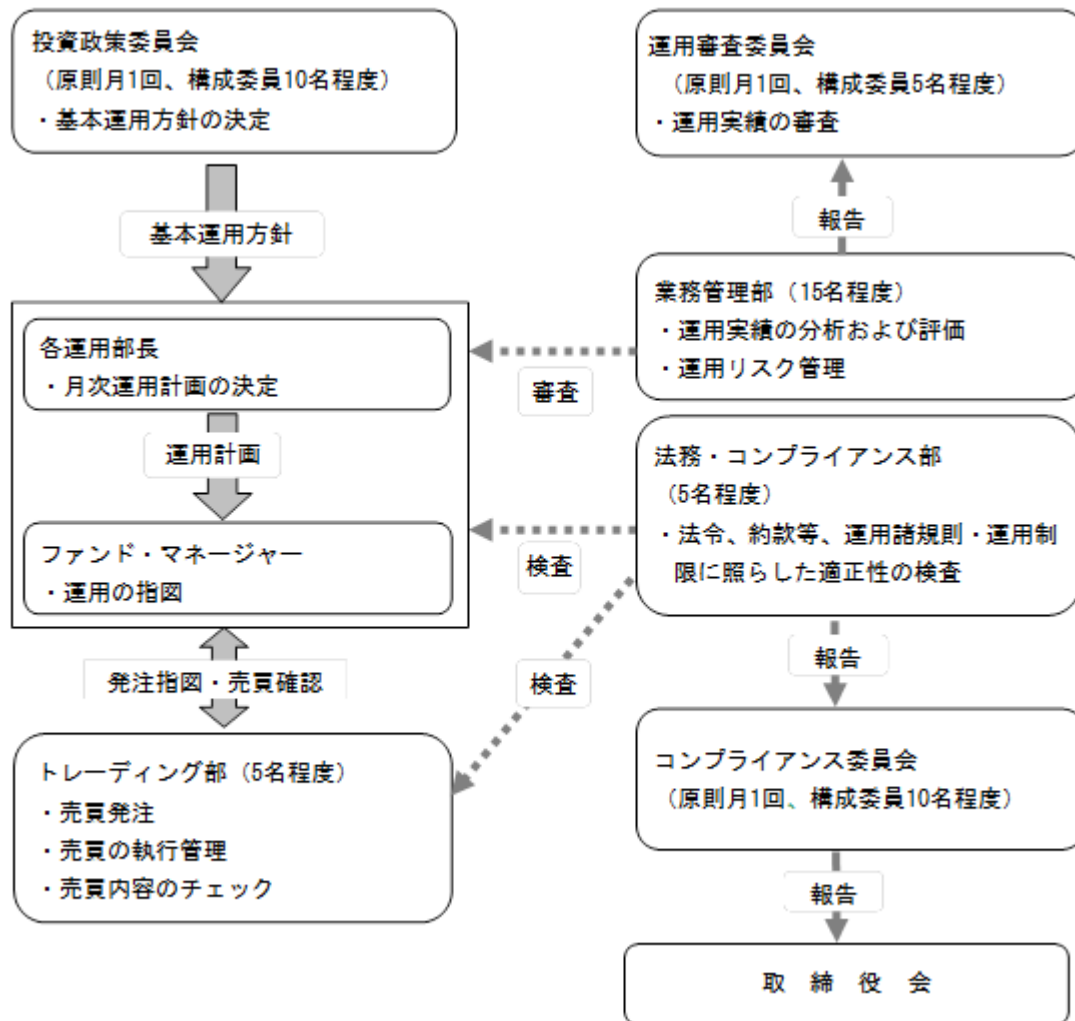
（略）

## 2 投資方針

## (3) 運用体制

&lt;更新後&gt;

委託会社の運用体制は以下の通りです。



個別ファンドの運用計画については、ファンド・マネージャーが組入比率等の計画を立案し、各運用部長の承認を経て実施されます。

受託会社に対しては、日々の純資産照合等を行っています。また、内部統制の有効性に関する報告書を定期的に受け取っています。

委託会社の運用体制等は平成27年9月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

### 3 投資リスク

<更新後>

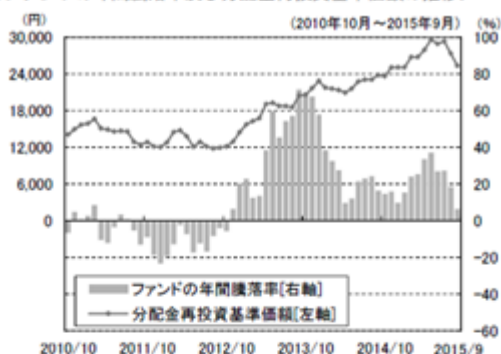
(略)

リスクの管理体制は平成27年9月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

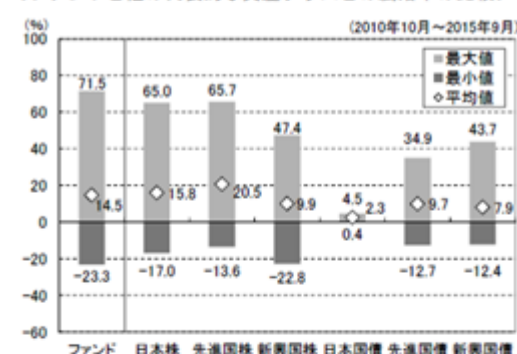
#### 参考情報

##### 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

<ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移>



<ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較>



(注) ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されており、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

- \* 右のグラフは、2010年10月から2015年9月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。
- \* 右のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- \* 上記の騰落率は2015年9月末日から遡って算出した結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

##### ○各資産クラスの指数

- 日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
- 新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
- 先進国債・・・シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債・・・JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- \* 詳細は「指数に関して」をご参照ください。

##### ●指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

###### 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIX に関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

###### MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI コクサイ・インデックスは MSCI が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI に帰属します。

###### MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI が開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI に帰属します。

###### NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスを用いて行われる T&D アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

###### シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、シティグループ・インデックス LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合利回りを各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はシティグループ・インデックス LLC に帰属します。

###### JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイドは、JP モルガン社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権は JP モルガン社に帰属します。

## 4 手数料等及び税金

### (5) 課税上の取扱い

< 訂正前 >

(略)

税法もしくは確定拠出年金法が改正された場合等には、前述の内容が変更になることがあります。  
税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

< 訂正後 >

(略)

税法もしくは確定拠出年金法が改正された場合等には、前述の内容が変更になることがあります。  
詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5 運用状況

&lt;更新後&gt;

## (1) 投資状況

資産の種類別、地域別の投資状況

(平成27年9月30日現在)

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	1,857	99.83
コール・ローン、その他の資産（負債差引後）	日本	3	0.17
合計（純資産総額）	-	1,860	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。)

## (2) 投資資産

## 投資有価証券の主要銘柄

イ．評価額上位銘柄（全銘柄）

(平成27年9月30日現在)

	国名	種類	銘柄名	数量 (口)	簿価単価 (円) 簿価金額 (円)	時価単価 (円) 時価金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	アクティブ パリユー マザーファンド	818,705,082	2.3936 1,959,706,359	2.2683 1,857,068,737	99.83

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

ロ．投資有価証券の種類別比率

(平成27年9月30日現在)

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.83
合計	99.83

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

## 投資不動産物件

該当事項はありません。

## その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

**(3) 運用実績**  
**純資産の推移**

平成27年9月末日及び同日前1年以内における各月末及び直近10計算期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第4期 計算期間 (平成18年2月27日現在)	446	446	2.9340	2.9340
第5期 計算期間 (平成19年2月27日現在)	646	646	3.4267	3.4267
第6期 計算期間 (平成20年2月27日現在)	620	620	2.7106	2.7106
第7期 計算期間 (平成21年2月27日現在)	707	707	1.2690	1.2690
第8期 計算期間 (平成22年3月1日現在)	1,016	1,016	1.5400	1.5400
第9期 計算期間 (平成23年2月28日現在)	1,339	1,339	1.6626	1.6626
第10期 計算期間 (平成24年2月27日現在)	1,411	1,411	1.4545	1.4545
第11期 計算期間 (平成25年2月27日現在)	1,639	1,639	1.5950	1.5950
第12期 計算期間 (平成26年2月27日現在)	2,084	2,084	2.1700	2.1700
平成26年9月末日	2,196	-	2.3834	-
平成26年10月末日	1,684	-	2.3620	-
平成26年11月末日	1,809	-	2.5093	-
平成26年12月末日	1,805	-	2.5086	-
平成27年1月末日	1,826	-	2.5093	-
第13期 計算期間 (平成27年2月27日現在)	1,910	1,910	2.6787	2.6787
平成27年2月末日	1,910	-	2.6787	-
平成27年3月末日	1,919	-	2.6776	-
平成27年4月末日	1,990	-	2.7964	-
平成27年5月末日	2,110	-	2.9627	-
平成27年6月末日	2,049	-	2.8934	-
平成27年7月末日	2,091	-	2.9361	-
平成27年8月末日	1,979	-	2.7371	-
平成27年9月末日	1,860	-	2.5342	-

**分配の推移**

	1口当たりの分配金(円)
第4期 計算期間(平成18年2月27日)	0.0000
第5期 計算期間(平成19年2月27日)	0.0000
第6期 計算期間(平成20年2月27日)	0.0000
第7期 計算期間(平成21年2月27日)	0.0000
第8期 計算期間(平成22年3月1日)	0.0000
第9期 計算期間(平成23年2月28日)	0.0000
第10期 計算期間(平成24年2月27日)	0.0000
第11期 計算期間(平成25年2月27日)	0.0000
第12期 計算期間(平成26年2月27日)	0.0000
第13期 計算期間(平成27年2月27日)	0.0000





## 収益率の推移

	収益率（％）
第4期 計算期間（平成17年3月1日～平成18年2月27日）	55.80
第5期 計算期間（平成18年2月28日～平成19年2月27日）	16.79
第6期 計算期間（平成19年2月28日～平成20年2月27日）	20.90
第7期 計算期間（平成20年2月28日～平成21年2月27日）	53.18
第8期 計算期間（平成21年2月28日～平成22年3月1日）	21.36
第9期 計算期間（平成22年3月2日～平成23年2月28日）	7.96
第10期 計算期間（平成23年3月1日～平成24年2月27日）	12.52
第11期 計算期間（平成24年2月28日～平成25年2月27日）	9.66
第12期 計算期間（平成25年2月28日～平成26年2月27日）	36.05
第13期 計算期間（平成26年2月28日～平成27年2月27日）	23.44
第14期 計算期間中（平成27年2月28日～平成27年9月30日）	5.39

（注）収益率とは、計算期間末の基準価額（分配額の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配額の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。ただし、第14期計算期間中については平成27年9月30日の基準価額から前期末基準価額を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

## （４）設定及び解約の実績

	設定口数	解約口数
第4期 計算期間（平成17年3月1日～平成18年2月27日）	123,310,700	31,985,957
第5期 計算期間（平成18年2月28日～平成19年2月27日）	86,590,570	49,909,270
第6期 計算期間（平成19年2月28日～平成20年2月27日）	136,246,608	96,224,738
第7期 計算期間（平成20年2月28日～平成21年2月27日）	456,190,479	127,859,070
第8期 計算期間（平成21年2月28日～平成22年3月1日）	274,545,644	172,002,724
第9期 計算期間（平成22年3月2日～平成23年2月28日）	238,718,642	93,036,442
第10期 計算期間（平成23年3月1日～平成24年2月27日）	284,016,792	118,927,267
第11期 計算期間（平成24年2月28日～平成25年2月27日）	323,075,037	265,418,843
第12期 計算期間（平成25年2月28日～平成26年2月27日）	453,958,181	521,336,588
第13期 計算期間（平成26年2月28日～平成27年2月27日）	297,618,103	544,929,901
第14期 計算期間中（平成27年2月28日～平成27年9月30日）	171,002,512	150,177,707

（注）設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

## （参考）アクティブ バリュースターファンドの状況

## （１）投資状況

親投資信託資産の種類別、地域別の投資状況

（平成27年9月30日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
株式	日本	9,289	97.54
コール・ローン、その他の資産（負債差引後）	日本	234	2.46
合計（純資産総額）	-	9,523	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。  
（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

## (2) 投資資産

## 投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄(30銘柄)

(平成27年9月30日現在)

	国名	種類	業種	銘柄名	数量 (株)	簿価単価 (円) 簿価金額 (円)	時価単価 (円) 時価金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	輸送用機器	トヨタ自動車	67,800	7,964.03 539,961,234	6,971.00 472,633,800	4.96
2	日本	株式	銀行業	三菱UFJフィナンシャル・グループ	361,600	777.76 281,238,016	716.40 259,050,240	2.72
3	日本	株式	電気機器	日立製作所	338,000	798.01 269,727,380	600.90 203,104,200	2.13
4	日本	株式	電気機器	ソニー	63,100	3,412.71 215,342,001	2,898.50 182,895,350	1.92
5	日本	株式	小売業	セブン&アイ・ホールディングス	30,100	5,085.38 153,069,938	5,444.00 163,864,400	1.72
6	日本	株式	銀行業	みずほフィナンシャルグループ	709,300	228.42 162,018,306	222.90 158,102,970	1.66
7	日本	株式	不動産業	三井不動産	46,000	3,345.33 153,885,180	3,263.00 150,098,000	1.58
8	日本	株式	ガラス・土石製品	太平洋セメント	407,000	389.43 158,498,010	358.00 145,706,000	1.53
9	日本	株式	陸運業	西日本旅客鉄道	18,900	7,675.31 145,063,359	7,481.00 141,390,900	1.48
10	日本	株式	食料品	日本たばこ産業	38,000	3,999.24 151,971,120	3,695.00 140,410,000	1.47
11	日本	株式	建設業	大成建設	180,000	806.43 145,157,400	778.00 140,040,000	1.47
12	日本	株式	輸送用機器	本田技研工業	39,300	3,860.71 151,725,903	3,539.00 139,082,700	1.46
13	日本	株式	銀行業	三井住友フィナンシャルグループ	30,500	4,760.16 145,184,880	4,512.00 137,616,000	1.45
14	日本	株式	情報・通信業	NTTドコモ	68,400	2,167.47 148,254,948	1,993.00 136,321,200	1.43
15	日本	株式	情報・通信業	日本電信電話	32,600	3,726.89 121,496,614	4,178.00 136,202,800	1.43
16	日本	株式	機械	クボタ	83,000	1,942.98 161,267,340	1,635.50 135,746,500	1.43
17	日本	株式	小売業	ケーズホールディングス	35,900	3,940.18 141,452,462	3,750.00 134,625,000	1.41
18	日本	株式	卸売業	住友商事	116,800	1,314.20 153,498,560	1,152.00 134,553,600	1.41
19	日本	株式	情報・通信業	ITホールディングス	49,400	2,113.48 104,405,912	2,703.00 133,528,200	1.40
20	日本	株式	医薬品	第一三共	63,800	1,892.82 120,761,916	2,070.00 132,066,000	1.39
21	日本	株式	輸送用機器	マツダ	69,800	2,438.55 170,210,790	1,880.00 131,224,000	1.38
22	日本	株式	医薬品	アステラス製薬	83,300	1,817.76 151,419,408	1,545.00 128,698,500	1.35
23	日本	株式	食料品	雪印メグミルク	55,900	2,243.36 125,404,097	2,286.00 127,787,400	1.34
24	日本	株式	化学	東ソー	221,000	598.78 132,330,380	573.00 126,633,000	1.33
25	日本	株式	その他製品	パンダイナムコホールディングス	44,600	2,861.48 127,622,008	2,770.00 123,542,000	1.30

26	日本	株式	電気機器	富士通	238,000	695.80 165,600,400	518.50 123,403,000	1.30
27	日本	株式	情報・通信業	S C S K	26,900	3,291.34 88,537,046	4,475.00 120,377,500	1.26
28	日本	株式	電気機器	パナソニック	97,700	1,591.90 155,528,630	1,203.50 117,581,950	1.23
29	日本	株式	化学	花王	21,700	5,914.36 128,341,612	5,403.00 117,245,100	1.23
30	日本	株式	食料品	森永製菓	199,000	375.42 74,708,580	587.00 116,813,000	1.23

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

## □．投資有価証券の種類別及び業種別比率

（平成27年9月30日現在）

種類	業 種	投 資 比 率（％）
株式	輸送用機器	11.99
株式	電気機器	11.86
株式	銀行業	9.33
株式	情報・通信業	9.05
株式	小売業	6.81
株式	化学	5.63
株式	医薬品	4.76
株式	食料品	4.52
株式	機械	3.90
株式	建設業	3.65
株式	卸売業	3.44
株式	陸運業	2.91
株式	サービス業	2.78
株式	不動産業	2.63
株式	電気・ガス業	2.38
株式	非鉄金属	1.71
株式	保険業	1.70
株式	ガラス・土石製品	1.53
株式	証券、商品先物取引業	1.30
株式	その他製品	1.30
株式	ゴム製品	1.06
株式	その他金融業	0.88
株式	鉄鋼	0.83
株式	空運業	0.81
株式	海運業	0.78
	合計	97.54

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各業種の評価額比率です。

**投資不動産物件**

該当事項はありません。

**その他投資資産の主要なもの**

該当事項はありません。

## (参考) 運用実績

(2015年9月30日現在)

## 基準価額・純資産の推移



※基準価額は信託報酬控除後です。

## 分配の推移 (1万口当たり、税引前)

2015年2月	0円
2014年2月	0円
2013年2月	0円
2012年2月	0円
2011年2月	0円
設定来累計	0円

## 主要な資産の状況

## ● 組入上位銘柄

銘柄名(銘柄数 86)	業種	比率
トヨタ自動車	輸送用機器	5.0%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.7%
日立製作所	電気機器	2.1%
ソニー	電気機器	1.9%
セブン&アイ・ホールディングス	小売業	1.7%
みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.7%
三井不動産	不動産業	1.6%
太平洋セメント	ガラス・土石製品	1.5%
西日本旅客鉄道	陸運業	1.5%
日本たばこ産業	食料品	1.5%

※組入上位銘柄の比率はマザーファンドへの投資を通じた実質組入比率です。

## ● 投資比率

株式	97.4%
コール・ローン、その他	2.6%
合計	100.0%

※投資比率はマザーファンドへの投資を通じた実質組入比率です。

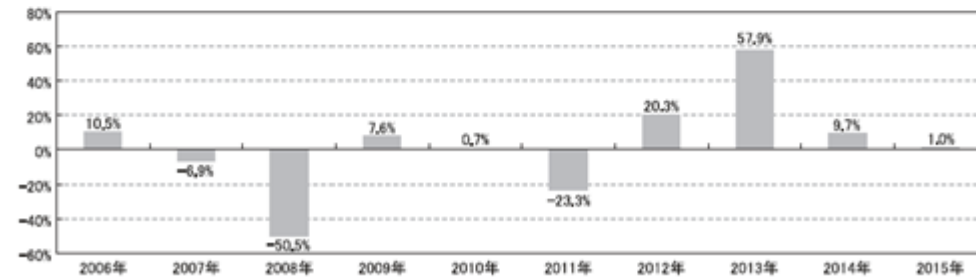
※比率は、表示桁数未満を四捨五入しているため、合計の数値が必ずしも100とはなりません。

## ● 組入上位業種

業種	比率
輸送用機器	12.0%
電気機器	11.8%
銀行業	9.3%
情報・通信業	9.0%
小売業	6.8%
その他の業種	48.4%

※組入上位業種の比率はマザーファンドへの投資を通じた実質組入比率です。

## 年間収益率の推移(暦年ベース)



※2015年は年初から9月末までの収益率を表示しています。

◆運用実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。  
◆最新の運用状況は委託会社のホームページでご覧いただけます。

**第2【管理及び運営】****3 資産管理等の概要****(1) 資産の評価**

&lt;訂正前&gt;

(略)

T &amp; Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-3434-5544 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

&lt;訂正後&gt;

(略)

T &amp; Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

### 第3【ファンドの経理状況】

<追加>

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)並びに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しており、金額は円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、第14期中間計算期間(平成27年2月28日から平成27年8月27日まで)の中間財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

## 1 中間財務諸表

## DC アクティブ バリュースhare オープン

## (1) 中間貸借対照表

(単位：円)

	第13期 (平成27年2月27日現在)	第14期中間計算期間 (平成27年8月27日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	23,849,788	29,218,958
親投資信託受益証券	1,903,791,463	1,906,646,786
未収利息	6	8
流動資産合計	1,927,641,257	1,935,865,752
資産合計	1,927,641,257	1,935,865,752
負債の部		
流動負債		
未払解約金	6,739,274	11,465,795
未払受託者報酬	1,008,425	1,077,359
未払委託者報酬	9,378,305	10,019,379
その他未払費用	50,364	53,807
流動負債合計	17,176,368	22,616,340
負債合計	17,176,368	22,616,340
純資産の部		
元本等		
元本	713,204,466	716,706,916
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	1,197,260,423	1,196,542,496
(分配準備積立金)	512,755,442	424,778,967
元本等合計	1,910,464,889	1,913,249,412
純資産合計	1,910,464,889	1,913,249,412
負債純資産合計	1,927,641,257	1,935,865,752



## ( 2 ) 中間損益及び剰余金計算書

( 単位：円 )

	第13期中間計算期間 ( 自 平成26年2月28日 至 平成26年8月27日 )	第14期中間計算期間 ( 自 平成27年2月28日 至 平成27年8月27日 )
営業収益		
受取利息	1,666	788
有価証券売買等損益	154,893,694	6,519,323
営業収益合計	154,895,360	6,520,111
営業費用		
受託者報酬	1,096,514	1,077,359
委託者報酬	10,197,469	10,019,379
その他費用	54,770	53,807
営業費用合計	11,348,753	11,150,545
営業利益	143,546,607	4,630,434
経常利益	143,546,607	4,630,434
中間純利益	143,546,607	4,630,434
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	3,665,229	19,776,834
期首剰余金又は期首欠損金 ( )	1,123,840,497	1,197,260,423
剰余金増加額又は欠損金減少額	142,821,097	249,474,702
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	142,821,097	249,474,702
剰余金減少額又は欠損金増加額	168,710,627	225,785,361
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	168,710,627	225,785,361
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金 ( )	1,237,832,345	1,196,542,496

## (3) 中間注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 運用資産の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(中間貸借対照表に関する注記)

第13期 (平成27年2月27日現在)	第14期中間計算期間 (平成27年8月27日現在)
1 計算期間の末日における受益権の総数 713,204,466口	1 中間計算期間の末日における受益権の総数 716,706,916口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 2.6787円 (1万口当たり純資産額 26,787円)	2 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 2.6695円 (1万口当たり純資産額 26,695円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

	第13期 (平成27年2月27日現在)	第14期中間計算期間 (平成27年8月27日現在)
1 中間貸借対照表（又は貸借対照表）計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2 中間貸借対照表（又は貸借対照表）の科目ごとの時価の算定方法	親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。	同左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれることがあります。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。	同左

（その他の注記）

1 元本の移動

項 目	期 別	第13期 （自 平成26年2月28日 至 平成27年2月27日）	第14期中間計算期間 （自 平成27年2月28日 至 平成27年8月27日）
期首元本額		960,516,264 円	713,204,466 円
期中追加設定元本額		297,618,103 円	137,145,823 円
期中一部解約元本額		544,929,901 円	133,643,373 円

2 デリバティブ取引関係

第13期（自 平成26年2月28日 至 平成27年2月27日）

該当事項はありません。

第14期中間計算期間（自 平成27年2月28日 至 平成27年8月27日）

該当事項はありません。

## (参考) アクティブ バリューマザーファンドの状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

当ファンドは「アクティブ バリューマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンド受益証券です。

## (1) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	対象年月日	(平成27年2月27日現在)	(平成27年8月27日現在)
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		70,655,135	199,626,246
株式		12,741,805,420	10,195,907,890
未収入金		297,696,997	153,405,297
未収配当金		16,757,000	14,484,220
未収利息		19	54
流動資産合計		13,126,914,571	10,563,423,707
資産合計		13,126,914,571	10,563,423,707
負債の部			
流動負債			
未払金		141,252,371	184,278,790
流動負債合計		141,252,371	184,278,790
負債合計		141,252,371	184,278,790
純資産の部			
元本等			
元本		5,445,546,595	4,343,658,595
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金( )		7,540,115,605	6,035,486,322
元本等合計		12,985,662,200	10,379,144,917
純資産合計		12,985,662,200	10,379,144,917
負債純資産合計		13,126,914,571	10,563,423,707

## (2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 運用資産の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場又は気配相場）で評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

(平成27年2月27日現在)		(平成27年8月27日現在)	
1 計算期間の末日における受益権の総数	5,445,546,595口	1 計算期間の末日における受益権の総数	4,343,658,595口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 2.3846円 (1万口当たり純資産額 23,846円)	2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 2.3895円 (1万口当たり純資産額 23,895円)

(その他の注記)

## 1 元本の移動

項目	対象年月日	(平成27年2月27日現在)	(平成27年8月27日現在)
期首元本額		7,839,694,356 円	5,445,546,595 円
期中追加設定元本額		257,407,358 円	148,123,431 円
期中一部解約元本額		2,651,555,119 円	1,250,011,431 円
期末元本額		5,445,546,595 円	4,343,658,595 円
元本の内訳*			
アクティブ バリュウー オープン		1,362,640,606 円	1,114,977,389 円
DC アクティブ バリュウー オープン		798,369,313 円	797,927,092 円
T & D アクティブ バリュウー P F (非課税適格機関投資家専用)		504,645,618 円	510,705,691 円
T & D・アクティブバリュウーオープン VA (適格機関投資家専用)		1,884,515,513 円	1,249,860,817 円
アクティブバリュウーオープンVA 1 (適格機関投資家専用)		876,535,230 円	654,468,438 円
アクティブバリュウーオープンVA 2 (適格機関投資家専用)		18,840,315 円	15,719,168 円
合計		5,445,546,595 円	4,343,658,595 円

\* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## 2 デリバティブ取引関係

(自平成26年2月28日 至平成27年2月27日)

該当事項はありません。

(自平成27年2月28日 至平成27年8月27日)

該当事項はありません。

**2 ファンドの現況**  
**純資産額計算書**

&lt; 更新後 &gt;

（平成27年9月30日現在）

資産総額	1,865,846,530	円
負債総額	5,666,095	円
純資産総額（ - ）	1,860,180,435	円
発行済数量	734,029,271	口
1 単位当たり純資産額（ / ）	2.5342	円

**（参考）アクティブ バリュースターファンド**

資産総額	9,687,555,430	円
負債総額	164,568,094	円
純資産総額（ - ）	9,522,987,336	円
発行済数量	4,198,383,715	口
1 単位当たり純資産額（ / ）	2.2683	円

**第三部【委託会社等の情報】****第1【委託会社等の概況】****1 委託会社等の概況**

&lt;訂正前&gt;

**(1) 資本金の額**

平成27年3月末日現在の資本金の額 11億円  
(略)

**(2) 会社の機構**

会社の機構は平成27年3月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

&lt;訂正後&gt;

**(1) 資本金の額**

平成27年9月末日現在の資本金の額 11億円  
(略)

**(2) 会社の機構**

会社の機構は平成27年9月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

**2 事業の内容及び営業の概況**

&lt;更新後&gt;

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務および第二種金融商品取引業を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は平成27年9月末日現在、185本であり、その純資産総額の合計は632,078百万円です（ただし、親投資信託を除きます。）。

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	144本	485,153百万円
単体型株式投資信託	27本	93,123百万円
追加型公社債投資信託	1本	16,640百万円
単体型公社債投資信託	13本	37,162百万円
合計	185本	632,078百万円

[次へ](#)

### 3 委託会社等の経理状況

#### <更新後>

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第35期事業年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。



## ( 1 ) 貸借対照表

区分	注記 番号	第34期 (平成26年3月31日現在)		第35期 (平成27年3月31日現在)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
(資産の部)					
流動資産					
1. 預金			5,057,972		5,145,515
2. 有価証券			2,000,000		2,000,000
3. 前払費用			68,916		61,184
4. 未収入金			-		6,658
5. 未収委託者報酬			578,201		615,656
6. 未収運用受託報酬			400,065		391,340
7. 繰延税金資産			96,193		75,393
8. その他			5,698		5,637
流動資産計			8,207,047		8,301,386
固定資産					
1. 有形固定資産			68,305		59,952
(1) 建物	1	43,178		37,148	
(2) 器具備品	1	24,230		21,907	
(3) その他		897		897	
2. 無形固定資産			50,257		49,602
(1) 電話加入権		2,862		2,862	
(2) ソフトウェア		45,793		41,803	
(3) ソフトウェア仮勘定		1,601		4,935	
3. 投資その他の資産			483,292		521,449
(1) 投資有価証券		187,596		107,398	
(2) 関係会社株式		5,386		5,386	
(3) 長期差入保証金		141,107		247,966	
(4) 繰延税金資産		148,738		154,137	
(5) その他		463		6,561	
固定資産計			601,855		631,004
資産合計			8,808,902		8,932,390

区分	注記 番号	第34期 (平成26年3月31日現在)		第35期 (平成27年3月31日現在)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
<b>(負債の部)</b>					
流動負債					
1. 預り金			60,329		240,063
2. 未払金			415,875		274,749
(1) 未払収益分配金		665		789	
(2) 未払償還金		5,658		5,658	
(3) 未払手数料		197,992		222,619	
(4) その他未払金		211,559		45,681	
3. 未払費用			354,021		350,246
4. 未払法人税等			18,326		18,393
5. 未払消費税等			23,294		56,005
6. 賞与引当金			203,351		174,657
7. 役員賞与引当金			26,000		10,000
流動負債計			1,101,200		1,124,115
固定負債					
1. 退職給付引当金			374,966		402,572
2. 役員退職慰労引当金			20,830		26,197
固定負債計			395,797		428,770
負債合計			1,496,997		1,552,885
<b>(純資産の部)</b>					
株主資本					
1. 資本金			1,100,000		1,100,000
2. 資本剰余金			277,667		277,667
(1) 資本準備金		277,667		277,667	
3. 利益剰余金			5,936,462		6,002,917
(1) 利益準備金		175,000		175,000	
(2) その他利益剰余金					
別途積立金		3,137,790		3,137,790	
繰越利益剰余金		2,623,672		2,690,127	
株主資本計			7,314,130		7,380,585
評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金			2,225		1,080
評価・換算差額等計			2,225		1,080
純資産合計			7,311,904		7,379,505
負債純資産合計			8,808,902		8,932,390

## (2) 損益計算書

区分	注記 番号	第34期 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)		第35期 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業収益					
1. 委託者報酬			4,889,793		4,328,295
2. 運用受託報酬			1,810,078		1,839,106
3. その他営業収益			7,865		-
営業収益計			6,707,737		6,167,402
営業費用					
1. 支払手数料			2,234,424		2,095,803
2. 広告宣伝費			26,770		3,774
3. 調査費			1,461,086		1,493,527
(1) 調査費		25,526		58,662	
(2) 委託調査費		1,072,157		1,058,869	
(3) 情報機器関連費		361,948		374,671	
(4) 図書費		1,453		1,323	
4. 委託計算費			170,888		160,922
5. 営業雑経費			155,892		157,361
(1) 通信費		8,354		8,310	
(2) 印刷費		101,645		97,950	
(3) 協会費		9,917		8,979	
(4) 諸会費		3,284		3,449	
(5) 紹介手数料		32,689		38,671	
営業費用計			4,049,062		3,911,389
一般管理費					
1. 給料			1,200,292		1,216,378
(1) 役員報酬		66,804		66,804	
(2) 給料・手当		1,084,917		1,101,744	
(3) 賞与		48,571		47,829	
2. 法定福利費			166,706		169,024
3. 退職金			4,438		3,571
4. 福利厚生費			2,842		3,044
5. 交際費			3,395		5,279
6. 旅費交通費			20,598		21,542
7. 事務委託費			96,003		83,048
8. 租税公課			18,879		17,845
9. 不動産賃借料			159,588		159,588
10. 退職給付費用			59,465		59,085
11. 役員退職慰労引当金繰入			5,366		5,366
12. 賞与引当金繰入			203,351		174,657
13. 役員賞与引当金繰入			26,000		10,000
14. 固定資産減価償却費			49,718		43,984
15. 諸経費			103,673		119,940
一般管理費計			2,120,323		2,092,356
営業利益			538,351		163,656

区分	注記 番号	第34期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		第35期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
営業外収益					
1. 受取配当金	1		2,187		1,633
2. 有価証券利息			1,465		1,396
3. 受取利息			635		772
4. 時効成立分配金・償還金			-		291
5. その他			11		7
営業外収益計			4,299		4,101
営業外費用					
1. 為替差損			1,301		5,549
2. 雑損失			127		1,694
営業外費用計			1,429		7,244
經常利益			541,222		160,513
特別利益					
1. 固定資産売却益	2		158		122
2. 投資有価証券売却益			1,552		14,779
特別利益計			1,710		14,901
特別損失					
1. 固定資産除却損	3		131		-
2. 投資有価証券売却損			978		18,299
3. 本社移転費用			-		14,743
特別損失計			1,110		33,043
税引前当期純利益			541,822		142,371
法人税、住民税及び事業税			175,594		61,231
法人税等調整額			58,341		14,684
当期純利益			307,885		66,454

## ( 3 ) 株主資本等変動計算書

第34期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金		株主資本 合計	
		資本準備 金	資本剰余 金合計		その他利益剰余金	利益剰余金 合計		
				別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,315,787	5,628,577	7,006,245
当期変動額								
剰余金の配当								
当期純利益						307,885	307,885	307,885
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	307,885	307,885	307,885
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,623,672	5,936,462	7,314,130

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価証券評価差 額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	599	599	7,006,844
当期変動額			
剰余金の配当			-
当期純利益			307,885
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)	2,825	2,825	2,825
当期変動額合計	2,825	2,825	305,059
当期末残高	2,225	2,225	7,311,904

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金		利益剰余金 合計	
		資本準備 金	資本剰余 金合計		別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,623,672	5,936,462	7,314,130
当期変動額								
剰余金の配当								
当期純利益						66,454	66,454	66,454
株主資本以外 の 項目の当期変動 額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	66,454	66,454	66,454
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,690,127	6,002,917	7,380,585

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,225	2,225	7,311,904
当期変動額			
剰余金の配当			-
当期純利益			66,454
株主資本以外 の 項目の当期変動 額(純額)	1,145	1,145	1,145
当期変動額合計	1,145	1,145	67,600
当期末残高	1,080	1,080	7,379,505

## 重要な会計方針

### 1．有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

##### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

##### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2．固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～18年

器具備品 3～15年

#### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

### 3．引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (2) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、期末要支給額を計上しております。

#### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

### 4．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

#### (2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

## 会計上の見積りの変更に関する注記

当事業年度において、翌事業年度に本社を移転することを決定し、本社の賃貸借契約に伴う原状回復義務の見積り額が111百万円増加しております。また、原状回復費用として償却を行っていた長期差入保証金について、償却に係る合理的な期間を短縮しております。これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の一般管理費が23百万円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ同額減少しております。

## 注記事項

## （貸借対照表関係）

第34期 (平成26年3月31日現在)	第35期 (平成27年3月31日現在)
1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 91,273千円 器具備品 147,915千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 97,303千円 器具備品 159,980千円

## （損益計算書関係）

第34期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	第35期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 関係会社からの受取配当金 263千円	_____
2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 器具備品 158千円	2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 器具備品 122千円
3 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 器具備品 131千円	_____

## （株主資本等変動計算書関係）

第34期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度増加 株式数（千株）	当事業年度減少 株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

## 2．配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。



第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度増加 株式数（千株）	当事業年度減少 株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
普通株式	1,082	-	-	1,082
合計	1,082	-	-	1,082

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社では、資金運用については原則として預金等の資産を中心に投資する方針であり、有価証券の取得を行う場合には、投機的な取引は行いません。

また、資金調達については、主に金融機関からの借入による方針です。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は顧客の信用リスクに晒されておりますが、主に信託銀行により分別管理が行われている信託財産から支弁されており、当該リスクの影響は軽微であります。

有価証券は、短期の譲渡性預金であり、市場価格等の変動リスクは軽微であります。

投資有価証券及び関係会社株式は、主に非上場株式、子会社株式及び投資信託であります。非上場株式及び子会社株式は業務上の関係維持を目的として保有しており、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。投資信託は当社が設定する投資信託を商品性の維持等を目的に取得しているものであり、市場価格等の変動リスクは軽微であります。

長期差入保証金については、主に本社ビルの賃貸借契約に基づき差入れたものであり、信用リスクの影響は軽微であります。

未払金、未払費用は、ほとんどが1年以内の支払期日です。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、「リスク管理基本方針」にて各種リスクの基本的考え方を定めており、「財務リスク管理規程」によって、財務リスク（資金繰りリスク、信用リスク）の管理方法を定めています。財務リスクの状況は、月次で開催されるリスク管理委員会にてモニタリングが行われます。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）参照のこと。）。

第34期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	5,057,972	5,057,972	-
(2) 有価証券			
その他有価証券	2,000,000	2,000,000	-
(3) 未収委託者報酬	578,201	578,201	-
(4) 未収運用受託報酬	400,065	400,065	-
(5) 投資有価証券			
その他有価証券	125,396	125,396	-
資産計	8,161,636	8,161,636	-
(1) 未払金			
未払収益分配金	(665)	(665)	-
未払償還金	(5,658)	(5,658)	-
未払手数料	(197,992)	(197,992)	-
その他未払金	(211,559)	(211,559)	-
(2) 未払費用	(354,021)	(354,021)	-
負債計	(769,897)	(769,897)	-

(\*) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

## 資産

## (1) 預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 未収委託者報酬及び未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 有価証券(譲渡性預金)及び投資有価証券(投資信託)

譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、投資信託は公表されている基準価額によっております。

## 負債

## (1) 未払金及び未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	62,200
子会社株式	5,386
長期差入保証金	141,107
合計	208,693

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
預金	5,057,972	-	-
有価証券			
其他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	2,000,000	-	-
未収委託者報酬	578,201	-	-
未収運用受託報酬	400,065	-	-
投資有価証券			
其他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	6,220	80,252	38,923
合計	8,042,460	80,252	38,923

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	5,145,515	5,145,515	-
(2) 有価証券			
其他有価証券	2,000,000	2,000,000	-
(3) 未収入金	6,658	6,658	-
(4) 未収委託者報酬	615,656	615,656	-
(5) 未収運用受託報酬	391,340	391,340	-
(6) 投資有価証券			
其他有価証券	45,198	45,198	-
資産計	8,204,369	8,204,369	-
(1) 未払金			
未払収益分配金	(789)	(789)	-
未払償還金	(5,658)	(5,658)	-
未払手数料	(222,619)	(222,619)	-
其他未払金	(45,681)	(45,681)	-
(2) 未払費用	(350,246)	(350,246)	-
負債計	(624,995)	(624,995)	-

(\*) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

## 資産

## (1) 預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 未収入金、未収委託者報酬及び未収運用受託報酬

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 有価証券(譲渡性預金)及び投資有価証券(投資信託)

譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、投資信託は公表されている基準価額によっております。

## 負債

## (1) 未払金及び未払費用

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	62,200
子会社株式	5,386
長期差入保証金	247,966
合計	315,552

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

## (注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
預金	5,145,515	-	-
有価証券			
その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	2,000,000	-	-
未収入金	6,658	-	-
未収委託者報酬	615,656	-	-
未収運用受託報酬	391,340	-	-
投資有価証券			
その他有価証券のうち 満期があるもの(その他)	-	25,010	20,188
合計	8,159,171	25,010	20,188

## (有価証券関係)

第34期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

その他有価証券の当事業年度中の売却額は59,878千円であり、売却益の合計額は1,552千円、売却損の合計額は978千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	種類(*)	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額 が取得原価を超え るもの	(1) その他の証券	56,700	68,005	11,305
	小計	56,700	68,005	11,305
貸借対照表計上額 が取得原価を超え ないもの	(1) その他の証券	2,072,154	2,057,390	14,764
	小計	2,072,154	2,057,390	14,764
合計		2,128,854	2,125,396	3,458

(\*) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

その他有価証券の当事業年度中の売却額は206,953千円であり、売却益の合計額は14,779千円、売却損の合計額は18,299千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	種類(*)	取得原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上額 が取得原価を超え るもの	(1) その他の証券	15,326	18,181	2,854
	小計	15,326	18,181	2,854
貸借対照表計上額 が取得原価を超え ないもの	(1) その他の証券	2,031,468	2,027,016	4,451
	小計	2,031,468	2,027,016	4,451
合計		2,046,795	2,045,198	1,596

(\*) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

（退職給付関係）

第34期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。なお、従業員の一部について平成16年7月より確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を開始しました。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2．確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	362,699千円
退職給付費用	51,813千円
退職給付の支払額	39,547千円
退職給付引当金の期末残高	374,966千円

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	374,966千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	374,966千円

退職給付引当金	374,966千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	374,966千円

(3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	51,813千円
----------------	----------

3．確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	7,652千円
--------------	---------

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。なお、従業員の一部について平成16年7月より確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を開始しました。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	374,966千円
退職給付費用	50,270千円
退職給付の支払額	22,664千円
退職給付引当金の期末残高	402,572千円

## (2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	402,572千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	402,572千円

退職給付引当金	402,572千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	402,572千円

## (3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	50,270千円
----------------	----------

## 3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	8,815千円
--------------	---------

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第34期（平成26年3月31日現在）	第35期（平成27年3月31日現在）
	（単位：千円）	（単位：千円）
（繰延税金資産）		
賞与引当金	72,474	57,811
未払事業税	5,734	2,927
未払社会保険料	10,404	9,035
退職給付引当金	141,062	138,855
子会社株式評価損	1,451	1,317
連結納税加入に伴う有価証券 時価評価益	23,363	21,200
減価償却超過額否認	4,418	3,538
長期差入保証金	-	11,227
繰越欠損金	2,468	-
その他有価証券評価差額金	1,232	516
その他	10,831	5,619
小計	273,443	252,048
評価性引当額	28,511	22,517
繰延税金資産計	244,931	229,530
繰延税金資産の純額	244,931	229,530

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

第34期（平成26年3月31日現在）		第35期（平成27年3月31日現在）	
法定実効税率	38.0 %	法定実効税率	35.6 %
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.1 %	交際費等永久に損金に算入されない項目	3.3 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0 %	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	- %
住民税均等割	0.4 %	住民税均等割	1.6 %
評価性引当額	0.1 %	評価性引当額	4.2 %
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.2 %	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	14.9 %
その他	1.4 %	その他	2.0 %
税効果会計適用後の法人税率の負担率	43.2 %	税効果会計適用後の法人税率の負担率	53.3 %

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）、「地方税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第2号）が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれるものについては32.3%となります。この税率変更により、繰延税金資産の純額は21百万円減少し、法人税等調整額が21百万円増加しております。

## （資産除去債務関係）

## 1．当該資産除去債務の概要

本社の賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

## 2．当該資産除去債務の金額の算定方法

当社は、資産除去債務の負債計上に代えて、賃貸借契約に関連する長期差入保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もり、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

## 3．当該資産除去債務の総額の増減

	第34期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第35期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
期首残高	52,188千円	52,188千円
見積りの変更による増加額	-	111,444
資産除去債務の履行による減少額	-	-
期末残高	52,188	163,632

## （セグメント情報等）

## セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

第34期（自平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1)営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

第35期（自平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1)営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## （関連当事者との取引）



## 1. 関連当事者との取引

## (1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

第34期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	(株)T&Dホールディングス	東京都港区	207,111	持株会社	(被所有)直接 100	経営管理 役員の兼任	賃借契約に係る敷金の差入(*1)	-	長期差入保証金	141,057
							連結納税に伴う支払予定額(*2)	163,840	未払金	163,840

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 長期差入保証金については、床面積を基準に決定しております。

(\*2) 連結法人税額のうち当社の個別帰属額であり、連結納税親会社へ支払う金額であります。

第35期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	(株)T&Dホールディングス	東京都港区	207,111	持株会社	(被所有)直接 100	経営管理 役員の兼任	賃借契約に係る敷金の差入(*1)	-	長期差入保証金	116,711
							連結納税に伴う受取予定額(*2)	6,658	未収入金	6,658

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(\*1) 長期差入保証金については、床面積を基準に決定しております。

(\*2) 連結法人税額のうち当社の個別帰属額であり、連結納税親会社から受け取る金額であります。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

株式会社T &amp; Dホールディングス（東京証券取引所に上場）

## (1株当たり情報)

第34期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		第35期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	
1株当たり純資産額	6,754.64円	1株当たり純資産額	6,817.09円
1株当たり当期純利益金額	284.42円	1株当たり当期純利益金額	61.39円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎		1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎	
当期純利益(千円)	307,885	当期純利益(千円)	66,454
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	普通株主に帰属しない金額(千円)	-

普通株式に係る当期純利益(千円)	307,885	普通株式に係る当期純利益(千円)	66,454
期中平均株式数(千株)	1,082	期中平均株式数(千株)	1,082

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

**第2【その他の関係法人の概況】****1 名称、資本金の額及び事業の内容**

&lt;訂正前&gt;

**(1) 受託会社**

三菱UFJ信託銀行株式会社

- ・資本金の額 324,279百万円（平成26年9月末日現在）  
(略)

&lt;信託事務の一部委託先&gt;

日本マスタートラスト信託銀行株式会社

- ・資本金の額 10,000百万円（平成26年9月末日現在）  
(略)

**(2) 販売会社**

名称	資本金の額（単位：百万円） 平成26年9月末日現在	事業の内容
(略)		

&lt;訂正後&gt;

**(1) 受託会社**

三菱UFJ信託銀行株式会社

- ・資本金の額 324,279百万円（平成27年3月末日現在）  
(略)

&lt;信託事務の一部委託先&gt;

日本マスタートラスト信託銀行株式会社

- ・資本金の額 10,000百万円（平成27年3月末日現在）  
(略)

**(2) 販売会社**

名称	資本金の額（単位：百万円） 平成27年3月末日現在	事業の内容
(略)		

**3 資本関係**

&lt;訂正前&gt;

（持株比率5.0%以上を記載します。）

平成27年3月末日現在、該当事項はありません。

&lt;訂正後&gt;

（持株比率5.0%以上を記載します。）

平成27年9月末日現在、該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年6月1日

T & Dアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小澤 裕治
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	蒲谷 剛史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の中間監査報告書

平成27年10月23日

T & Dアセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	蒲谷 剛史
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤 雅人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているDC アクティブ バリュウ オープンの平成27年2月28日から平成27年8月27日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、DC アクティブ バリュウ オープンの平成27年8月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成27年2月28日から平成27年8月27日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。